

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家(しらゆり棟)		
所在地	岩手県奥州市江刺区田原字大日195番地1		
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371200387&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成22年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の望むこと、やってみたいことを出来る限り実現させてあげることの出来る介護を提供しています。年間を通して季節感のある行事(春のお花見、夏の花火鑑賞しながらの焼き肉、秋は焼き芋会、冬は餅つき等々)を計画して入居者の皆様にお楽しみ頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊手川を望める小高い丘の自然豊かな土地をいかした2ユニット型のグループホームで認知症対応型通所介護事業を兼ね、同じ敷地に同一法人のデイサービスセンターもある。広いリビングと広大な庭が前面に広がり、庭の一角には100坪強の野菜畑もあり、日常のホームの生活支援に大いに役立っている。また、両ホームの風呂は、千貫石温泉のお湯を利用し、利用者に大好評である。ホーム内では職員の意見・要望を取り入れ、フルに活かしてホームの改善につなげている。運営推進会議はその都度、テーマを設けて行い、限られた時間の中で効果的な話し合いが進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を策定している。「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」を理念としている。理念は、職員一人一人の思いを全員で話し合い、作り上げたものです。常に利用者側に立ちながら、共に生活する支援を心掛け、理念を共有しています。事務スペース、ホールに掲示しています。	理念は事務室・ホールに掲示しており、朝・夕のミーティング時には確認し合っている。この理念は、職員が話し合い作り上げたものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているので、地域の運動会へ参加し、地区との交流を図っている。珠美会様に、踊りの慰問協力をいただいている。	地域住民として、自治会に加入しているので、回覧板も廻ってくる。踊りの慰問をしていただいたり、地区の運動会やマラソンの応援や保育園や、保育園のクリスマス会、敬老会などにも参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いや、意見をサービス向上に活かしている。今年から、区長さんにも委員をお願いしている。委員の任期は1年としている。テーマを決めて会議を行い、助言を頂いたり、外部評価や行事の報告等を行っている。	避難訓練、認知症研修会(地域交流を進めるためにも、地域の方々を対象に)などテーマを設定した会議をもち、運営推進委員と課題を共有しながら、より良いケアに向けての取り組みをしている。現在は、消防関係の方の出席もお願いしているし、駐在所にもオブザーバーとしての参加を呼びかける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市とともに、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議委員に福祉課長が	運営推進会議にも市の福祉課長が入り、情報交換はしている。市の包括支援センターは、グループホームは担当外ということで、日常的な相談は難しい状態であるが、市主催の研修会には参加している。可能な限り市の担当者との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や、リビングの施錠は夜間の防犯目的以外には行わず、日中は自由に入出入り出来る状態にしている。	雨天の際には広いリビングで、天気の際は広大な庭を散歩し、外出等について特に拘束の必要性はない。拘束の事例もない。なるだけ晴れた日は屋外でのくつろぎを多く取れるようにしている。(敷地内の)ところどころにベンチを設置し、外出を支援することに心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するホーム内研修を実施し、スタッフ全員に周知できるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、利用されていた方もいらっしゃいましたので、今後も必要に応じて対応します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、家族と十分時間を取って説明をし、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームページを立ち上げている。家族面会時に機会を設け、聞き入れ、管理者に上げている。目安箱を設置し、家族や外部の人が自由に意見を表せることができるよう配慮している。	職員の提案による目安箱を設けているが、これまで1件利用されている。職員と家族とのコミュニケーションを深めること、グループホームの状況は広報「花だより」によって知らせる等、家族が気安く意見を出せる様に心がけている。面会時や推進会議に出席された際に意見、要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員、職員同士でのミーティングを実施している。定期的に主任会議を開催し、事業の企画立案を行っている。目安箱を設置し、職員が自由に意見や提案ができるよう配慮している。	毎日の管理者と職員とのミーティングや主任会議や所長会議などの際にも意見、要望を出しやすい様な雰囲気づくりに努めている。目安箱の設置、共用の場でのソファの配置など、現場からの声を取り上げたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	36条協定、就業規則の見直しを行い、職場環境や就業条件の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等へ参加し、情報や意見の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の要望を聞き入れる体制作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者基本シートを用い、家族の要望を詳しく聴取しているとともに、面会時情報交換に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と連絡を取り、現状、実情の理解を得ながら、家族の要望も取り入れ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心掛けている。一緒に食事作りや片づけ、掃除、洗濯物たたみ、買い物等をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族からの希望がある場合には、お話を伺い、できるだけ希望に添えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔ながらの知人や友人、なじみの場所へ出掛ける等の機会を作れずにいる。	利用者の御主人が週2回程面会に来て、泊まっていく方もある。家族の協力をいただいて利用者個人の対応を考えており、実現に努めている。グループとしての対応は、できるだけ、どんな場所、人を希望しているかを把握することに努め、実現するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが思いやれる、思い合える様に、職員が介入して、全員で過ごす時間を作り孤立させないように、入居者同士の関わり合いを見守っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活史を把握し、また、個々に話を聞いてその時その時の思い等も聞き入れてケア、生活の中に取り入れている。買い物、ネイル、外食等。	職員は各々の気づきノートにその都度記入し、その日の計画に入らなくても皆で話し合い、計画作成員を中心に本人本位に検討し、対応することがある。利用者の生活史や日常の言動の中から、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活史の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人と必ず関わる事で、把握出来ていると共に、職員間での話し合いも設けている。身体状況の把握に努め、記録として残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを元に計画している。	職員の気づきを第一に、家族からも意向を聞き、アセスメントを含め、全員でモニタリング、カンファレンスを行い、反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌や個人記録に記入し、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの連携や、認知症対応型通所介護サービスの実施の他、家族が希望した場合は入居者の方と一緒に宿泊が出来る様に柔軟な対応をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歯科衛生士、医師の協力をもらい、口腔支援事業への取り組みや、理容師の方に出向いていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医への受診と家族やご本人の希望される病院への受診をされている。	協力医が全員のかかりつけ医となっている。協力医の受診対応は、ホームで対応し、眼科や特別な病気は家族が対応している。ホームでの対応についての受診対応費用等は頂いていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に密接な情報交換、報告相談し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここでの生活継続が可能な限り、医療機関(入院先)へも足を運ぶ等し、常態観察をしながら情報をいただいて、環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族からの相談が数件あり、方針を説明した上で職員間でも情報を共有し、家族と連絡を取り合っている。医療機関への実際な働きかけ。	入居契約時に重度化指針を説明し、同意を得ている。段階ごとに、家族、医療機関、ケア関係者と協議して計画を立て、随時本人や、家族との意志確認をしながら取り組む。現在までのところ看取り経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルも作成しており、日常生活の実践を通し、看護師を中心に全員で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施(年2回)、避難経路図を全員の目の届く所へ貼っている。推進委員会議を通して協力体制作りを行っている。	避難訓練は年2回、消防署の立会いで実施されている。マニュアルも整備され、連絡体制もできている。	非常出口は広くとれるが、出口の段差があることにより、車イスや歩行に心配な面がある。運営推進会議などや回覧などによる地域への更なる協力呼びかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場をわかまえ、個人対応をも心掛け、じっくり相手の話を聞き入れてから助言、対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず、何かを決めるにも、一人一人に自己決定、希望をうかがって物事を決める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日は出来ていないが、一人一人の生活(一日、一日の)を大切に、その日その人が何を望んでいるか叶えられるように心掛け、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネイル、お化粧品等、希望される方がおられますので、それぞれの希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の夕食と、月曜日の朝食は希望メニューを取り入れている。食事作りや味付け、盛り付けまでを一緒に行っている。	週末に利用者と一緒に買い物をし、利用者が食べたい物を購入し、好みの夕食づくりをしている。調理や片付けまで一連の作業ができる方が多くみられた。テーブルには職員も一緒になり、楽しい食事支援がなされている。利用者の生活史や日常の言動の中から、思いや意向の把握に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士への相談や、話し合いをもちながら、栄養バランスの確保を行っている。一人一人に応じた水分摂取量の調整も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、就寝前には必ず口腔ケアを行っている。毎食前は口腔体操を行っている。口腔ケア支援事業の取り組みとして、歯科衛生士、医師に来所していただき、指導を受けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員、一度に取り組む事は出来ないので、現在一人の方を中心に尿測をし、パターンを把握し、自立支援に向けた取り組みを行っている。	排泄パターンを把握し、それに基づきトイレ誘導や見守り介助をしているが、なるべく自立を促し、自発的にトイレ通いをするようきっかけ作り(タイミングを見た声かけ等)を目標に、見守り介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を取り入れた食事や、牛乳、ヨーグルトの活用、又は運動(外出等)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも良いと言われる方や、何時と時間や日程を指定する方がいるので、その方々の希望に沿った入浴をするようにしている。	入浴頻度は利用者の希望に沿いながら、入浴拒否の利用者には職員と一緒に入ったり、清拭、足浴等をして清潔保持の支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(特に夜間、)居室で休む事に不安を感じている場合には、仮設ベッド等を置き、職員の近くで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された場合とか安定剤に関しては、変化に注意し、変化が見られるときは、医師、家族にかけあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活史を元に、入居者が、自分らしく生活出来るように、楽しみが持てるように支援している。(ドライブ、買い物、家族との面会、おやつ作り、畑仕事等。)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診以外にも家族と外出される方もいます。職員とドライブをしたり、受診の帰りに買い物をすることもあります。	帰宅願望の方は、一時的に戸外に出て広い庭を散歩したり、草とりをしたりして気を紛らわせ、天気の良い日はドライブ、花見、買い物などの外出をしている。盆、正月などは家族と外出される方がいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避ける為に、預かりにしているが、個々に少ない金額(小銭)を管理されている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に書いていただいたり、希望に応じて、取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配置や、雰囲気作り、清潔面に気を配っている。ラジオの視聴希望が多い。	両ユニットとも大変広いリビングがあり、ソファ、リハビリ器具とテーブルが置かれ、更に広いスペースで輪投げや歩け歩け運動(民謡を伴奏に)やフットサルなど、いろんなレクリエーション活動を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて、その配置工夫しており、皆でくつろげる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい、居室作りを心掛けている。亡くなられた旦那さまの写真を飾り、お水や鐘を置いている方もいます。	部屋のレイアウトは、利用者に任せており、それぞれ写真、時計、整理タンス等が持ち込まれ、各自思い思いに工夫され、整理整頓がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動しやすいスペース、自由に出入り出来る台所、ユニット間を自由に行き来できるよう、各ユニットで了解合っている。		